

平成28年第6回羽村市議会（定例会） 一般質問通告項目一覧表

発言順	議席番号	議員氏名	質問項目	質問日
1人目	16番	瀧島愛夫 (40分)	<p>1. 並木市長の来期の市政担当への決意を問う</p> <p>(1) 並木市長の来期の市政担当への決意を問う。</p>	12月6日
2人目	12番	小宮國暉 (60分)	<p>1. 羽村らしい地方創生の飛躍に向けて</p> <p>(1) 「羽村市長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生計画」は、平成27年度から4つのプロジェクトを推進している。その過程の中で、現在策定中の長期総合計画後期基本計画との関係は体系的に整理されているか。</p> <p>(2) 「羽村市長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生計画」で重要な柱となっている4つのプロジェクトの中から具体的事業の進捗状況について伺う。</p> <p>① 「はむらで遊ぼう・暮らそうプロジェクト」のうち、サイクリングステーションの整備状況は。</p> <p>② 「はむらで子育てしようプロジェクト」のうち、妊娠・出産・子育て包括支援拠点の設置は、より充実した子育て支援とともに創生計画のねらいに一致した付加価値を生み出すものと期待できる。この計画への取組み内容と来年度へ向けての展開について伺う。</p> <p>③ 「はむらで働こうプロジェクト」のうち、羽村で暮らし、子どもを生き育てていくための施策として、市内企業の創業支援は重要である。具体的な支援の現状と課題、来年度へ向けての展開について伺う。</p> <p>④ 「はむらの魅力発信・知名度向上プロジェクト」のうち、「はむらの水」事業は、郷土はむらの水をテーマにした羽村らしい魅力の発信として、展開が期待できる。この事業を来訪者や定住者の増加につなげる方策について、どのように考えているか。</p> <p>(3) 「羽村市長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生計画」を策定するにあたってのアンケート調査では、安心して子育て、生活ができるための遊歩道を含む歩道整備や、街路灯（防犯灯）整備増設の要望が多く挙げられている。過去の計画にこだわらず公共施設整備に力を注ぐべきと考えるがいかがか。</p> <p>(4) これからの羽村市をけん引していくため、いろいろな切り口で羽村市の強み、弱み、脅威をしっかりと把握し、課題を見つけ出すさらなる努力が必要と考える。現状把握から段階的な経営戦略を構築するために、今後どのような方針で進めていくか。</p>	12月6日

3 人目

6 番

富 永 訓 正
(60 分)

2. 新しい道徳教育の取組みについて

- (1) 平成 25 年 2 月に「教育再生実行会議」の提言の中で道徳の教科化が打ち出され、平成 26 年 10 月の中央教育審議会での答申が出されたと聞き及んでいる。そこで「特別の教科 道徳」が導入された理由は何か。また、何が特別なのか。
- (2) 教科化されるということは今までと、何がどのように変わるのか。
- (3) 「特別の教科 道徳」では、どんな内容が指導されるのか。
- (4) 全面実施までにはいろいろな準備が必要と思われる。先日、羽村一中の平成 28 年度道徳授業地区公開講座を参観したが、この内容が準備にあたるものなのか。その他、準備として小中学校で取り組んでいることがあるか。
- (5) 現在の教科用図書採択に係る組織の中で、道徳教育が教科化された場合、どの部分が変わってくるのか。また全体のスケジュールは。

1. 羽村市のこれからの防災について

- (1) 「国土強靱化基本法」で、国土強靱化に係る各種の事業がより効果的かつスムーズに進捗することが期待できるため、都道府県または市町村で「国土強靱化地域計画」を定めることができるとされている。この計画について、市ではどのように捉え、また、計画策定をどのように考えているか。
- (2) 震災対策について
 - ① 旧耐震基準建築物を含め、民間建築物の耐震化・不燃化への状況と課題を伺う。
 - ② 家具類の転倒・落下・移動の防止対策の普及状況と課題を伺う。
- (3) 風水害対策について
 - ① 平成 28 年 5 月と 9 月に、国土交通省指定の新たな洪水浸水想定区域や、家屋倒壊等氾濫想定区域などが公表された。そのことについて市はどのように捉え、今後市として、どのように対応していくか。
 - ② ハード的な整備も必要であるが、それよりも、危険な状況になる前に、市民を安全な場所へ避難を促し、実行されることが最優先となる。現在、市の時系列での対応はある程度確立されているものの、直近の被害状況例の分析とともに、より緻密な計画を策定する必要があるのではないか。
- (4) 避難所運営について
 - ① 自主防災組織による避難所運営マニュアルの整備状況はどのようになっているか。
 - ② 防災訓練を中心とした避難所設営・運営の訓練の実施状況を伺う。
 - ③ 被災者のニーズの把握や他の団体等からの応援、ボランティア等の派遣調整等を行う「避難所支援班」のような組織は、どのような形

12 月 6 日

で、災害時にはどのような動きをするのか。

(5) 今年の台風 10 号で被災した地域では、避難所運営マニュアルが整備されていたにもかかわらず、自治体職員が初動期の避難所運営に集中したことにより、全体的な災害対応に影響を及ぼしかねない事態に見舞われた。羽村市においても、災害時の被災状況により、市職員の誰がどのタイミングで参集できるか分からない。マニュアルにある災害発生時の職員の動きを再度点検し、市民の安全確保を期すべきではないか。

(6) 避難誘導標識等について

避難場所等を掌握されていない方、あるいは外国人旅行者でも意味が理解できる「ピクトグラム」を活用した避難誘導標識等の整備を進める必要があるのではないか。現在、市内 2 カ所に掲示された電柱の地域貢献広告の積極的な推進や、広告付きソーラー式誘導標識の設置など、財政負担を抑えられる方法がある。安全で迅速な避難者誘導のためにも、取組みを進めてはどうか。

(7) 被災者の援護を総合的かつ効果的に実施するための基礎となる被災者台帳（被災者支援システム）の導入へ、市はどのように考えているか。

(8) 震災時に大量に発生すると想定される「がれき」について、市では従来から「災害時ごみ処理マニュアル」や、「がれき処理マニュアル」の策定の検討や処理体制の整備をしていくとしている。マニュアル整備に向けた取組み状況と、広域でのがれき・災害時ごみ処理体制についての考えを伺う。

2. 地域包括ケアシステムの体制と方向性について

(1) 地域包括ケアシステムがより良く機能するためには、プライマリ・ケアの充実が有効といわれている。専門医より総合診療医、総合病院より開業医と言う指摘もあるが。

① 市として、現状をどのように見ているか。

② 市としての取組みがあれば、それは何か。

(2) 介護分野での人材不足が指摘されている。

① 市の現状はどうか。

② ボランティアの充実に向けた取組みは。

③ 市として人材確保に向けた支援ができないか。

(3) 在宅医療・介護の連携推進事業について伺う。

① 羽村市の状況と課題は。

② 西多摩地域の状況と課題は。

(4) 西多摩地域 8 市町村での広域連携について

① 行政として、担当者レベルでの協議は行われているか。

② 西多摩地域 8 市町村での、行政・医療・介護などの関係機関・事業者等の協議についてはどうか。

③ 地域包括ケアでの広域的な取組みに力点を置いた連携推進を積極的に働きかけるべきと考えるがいかがか。

1. これからの地域コミュニティ（町内会・自治会）のあり方について

- (1) 年間を通して、地域コミュニティの形成、維持に尽力している町内会・自治会。しかし近年は、加入率の低下や高齢化などで運営が難しくなってきたところもあると聞いている。このような状況から、地域コミュニティの維持を市はどう捉えているのか伺う。
- (2) 町内会・自治会は現在 39 ある。それぞれ経緯や歴史、そして文化的な背景があるものの、「将来的には統廃合も必要ではないか」との声も聞いている。市は、行政連絡や自主防災等の事業で密接な関係もあることから、このような声に対しどう思っているのか伺う。
- (3) 一部の町内会と学区との区割りにずれが生じていて、災害時、同じ学区の中で避難する場所が異なるなど、わかりづらいという問題もあるが、これについてどう考えているか。
- (4) 地域コミュニティの変化に合わせて、町内会館等の利用需要にも変化が生じてくる。整理統合や施設の更新等、今後あり方の検討がさらに必要ではないか。
- (5) 町内会・自治会のあり方について、性急ではなく、じっくりと議論が交わされ、市民が納得いくように時間をかけて取り組んでいくことが重要であることから、将来的課題として継続した協議の場が持てるよう市の支援を望む。

2. 学校給食検討委員会の再設置を

- (1) 平成 19 年度に「学校給食検討委員会」が設置され、学校給食のあり方に関する事等が協議された。羽村市の協議結果はどういうものだったか。
 - ① 老朽化した施設の維持管理について。
 - ② 組合による運営、あるいは市単独の運営方法について
 - ③ センター方式、あるいは自校式について
 - ④ 業務委託等民間による運営方法について
 - ⑤ それら協議結果がどう反映されてきたか。
- (2) 食物アレルギー対策について
 - ① 食物アレルギーの児童、生徒はそれぞれ何人で過去 5 年の推移はどうか。
 - ② 学校給食センターでの除去食および代替食の調理は現施設では無理があるとのこと。食物アレルギーの子どもたちへの配食はどうしているのか。
 - ③ 食物アレルギーの子どもたちが、安心して美味しい給食が食べられるようにするためにも、現施設を建替えて除去食および代替食が提供できるよう望むがいかがか。
- (3) 前回の検討から 10 年が経つ。さらに老朽化が進んでいることもあり、瑞穂町および学校給食センターと協議して、建替えも含めた今後のあり方を検討する「学校給食検討委員会」の再設置を望む。

5 人目

1 番

高 田 和 登
(60 分)

3. 水道管の耐震化促進について

- (1) 水道管の管種別比率とそれぞれの管種の耐用年数は。
- (2) 水道管の耐用年数を超えた老朽化率と過去 5 年の推移はどうか。
- (3) 耐震性のあるダクタイル鋳鉄管等への更新は、1 年間でどれくらい進んでいるのか。また、全体の耐震化率はどれくらいか。
- (4) 都内の水道事業体と比べて耐震化率はどうなっているか。
- (5) 耐震化の計画とその進捗率はどうなっているか。
- (6) 国の緊急改善対象事業として老朽管更新予算が計上され、さらに補正予算でも増額が図られた。それとともに、起債や民間資金等の活用も含めた耐震化に必要な財源確保を進め、計画を早めるべきではないか。

1. 地域包括ケアシステムの進捗状況について

- (1) 在宅医療・介護連携推進事業について
 - ① 厚生労働省は、在宅医療・介護連携推進事業の具体的取組みとして以下の 8 項目を掲げているが、現在の市の進捗状況はどうなっているか。今後、どのような施策によって推進する予定か。
 - (ア) 地域の医療・介護の資源の把握
 - (イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
 - (ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
 - (エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
 - (オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
 - (カ) 医療・介護関係者の研修
 - (キ) 地域住民への普及啓発
 - (ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
 - ② 在宅医療・介護連携推進事業を進めるうえで、課題になっていることは何か。また、その課題を解決し、今後推進していくための具体策を問う。
- (2) 地域ケア会議について
 - ① 地域包括ケアシステムの中には、地域ケア会議の推進があるが、どのような会議が設定されているか。
 - ② その会議の目的と機能を問う。
 - ③ また、その会議のうち、羽村市が取り組んでいるのは、どのような会議か。
 - ④ 今後、どのようにして、地域ケア会議の推進を具体的に図っていくつもりか。

12 月 6 日

1. 子育て世代が住みたいと思うまちづくり（子育て世代包括支援センターについて）

(1) 包括支援体制の構築について

- ①地域の支援・相談窓口の拠点をどこに置く考えか。
- ②担い手となる人材（助産師、保健師）の確保は進められているか。
- ③専門的な研修体制はどのように計画されているか。
- ④相談支援が切れ目なく続く、包括的な支援プランの作成と運用についての考えを伺う。
- ⑤ワンストップで健診や相談支援が受けられ、担当保健師と顔の見える関係づくりができる体制となるのか。
- ⑥父親を含めた家族全体の支援強化を図ることも必要ではないか。

(2) 産後ケアについては、国も少子化危機突破のための緊急対策の中で「強化していくべき」としている。平成 27 年 6 月定例会で、「産後ケアについては医療機関等の実施施設や助産師等の人材確保などに課題があることから、今後、研究していきたい」との答弁をいただいたが、現在はどのような状況か。

(3) 「育児パッケージ」について

- ①配布する考えか。
- ②配布するとしたら、内容はどのようなものと考えているのか。
- ③配布対象者はどの時期に妊娠なさった方とするのか。

(4) 市民への周知等について

- ①「子育て世代包括支援センター」が果たす役割や業務内容等の周知は丁寧に、幅広く行っていくべきと考えるが、どのように進めていく考えか。
- ②親しみやすい名称を考えてはいかがか。

2. 住み慣れた地域で自分らしい生活を送るための「在宅医療・介護連携」の取組みについて

(1) 羽村市における「在宅医療・介護連携」は現在、どのような状況か。

(2) 東京都の「在宅療養」に関する事業の活用、連携について伺う。

- ①「区市町村・地域医師会在宅療養担当者連絡会」への参加状況と、連絡会で得た成果はどのように市の事業に活かされているのか。
- ②医療と介護が連携し、ICTネットワークの活用等により情報を共有し連携を図る「多職種ネットワーク構築事業」の活用状況について伺う。
- ③「看取り支援事業」の活用と市民への啓発事業はいつ行われる予定なのか。

(3) 国は平成 30 年までに「在宅医療・介護連携推進事業」を実施するとしている。原則として市区町村が「取り組むべき事業」とされている以

7人目

9番

西川 美佐保
(60分)

下の事業は、現在どこまで進んでいるのか。現状と今後の行程について伺う。

- ①「地域の医療・介護の資源の調査と把握」はできていると聞いているが結果公表についてはどのようにしているのか。
- ②地域の医療・介護関係者が参画し、課題の抽出と対応策を検討する会議の開催
- ③切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
- ④情報共有シート、地域連携パス等の活用による、医療・介護関係者の情報共有の支援
- ⑤在宅医療・介護連携に関する相談窓口（在宅療養相談窓口）の設置・運営
- ⑥医療・介護関係者の研修
- ⑦「地域住民への普及啓発」の時期
- ⑧在宅医療・介護連携に関する関係市区町村（同一の二次医療圏内）の連携

3. シティプロモーションについて（その1）

- (1)「はむらブランド」の浸透はどのように図られるのか。
- (2)基本構想、戦略は立てられたのか。
- (3)職員、市民に対するインナープロモーションは確実に実施されていると考えているのか。
- (4)「はむら家族プロジェクト」について
 - ①キャッチコピーには何件の投票があったのか。
 - ②今後、「はむら家族プロジェクト」はどういった活動を展開していくのか。

1. 地産地消のエネルギー、スマートコミュニティの推進を

- (1)市の二酸化炭素排出量削減は、目標年次の2020年度まであと4年となったが現状はどうか。また、パリ協定が発効されたが、目標年次を国や都と合わせてはどうか。
- (2)市の省エネ、低炭素社会への取り組みについて
 - ①これまで市民、事業所への取り組みはどのように行い、それぞれ太陽光発電施設や蓄電池など、把握できる範囲でどのくらい設置できたのか。また、補助金の周知、促進を今後どのように図っていくのか。
 - ②これまで、市はどのように取り組んできたか。また、太陽光発電や蓄電池などをゆとろぎ、庁舎、分庁舎に設置しており、今年度は栄小、羽村東小、羽村二中、スイミングセンターに設置予定だが、来年度以降の予定はどうか。
- (3)2012年6月議会で質問した「スマート・シティ」について
 - ①羽村市では、地球温暖化対策地域推進計画で「スマートコミュニティ」を、環境とみどりの基本計画で「スマートライフ」を掲げているが、将来の羽村市の具体的なイメージをどのように考えているか。

12月7日

8人目

4番

富松 崇
(60分)

- ②スマートライフ等を推進するために、市民にできる取組みはどのようなものがあるか。また、スマートメーターやHEMSの役割をどのように考えているか。
 - ③スマート交通システムやAZEMSの取組みを今後どのように広げていくのか。
 - (4)全国では、自治体为新電力会社を立ち上げ、委託等で運営するところも広がっている。将来的に、地域で生まれる新エネルギー（太陽光、太陽熱、小水力発電、バイオマス、燃料電池など）を地域のエネルギー会社と連携し、エネルギーを管理するシステムを創設すべきと思うが、市の考えを伺う。
- 2. 子どもの貧困対策と「子ども食堂」等について**
- (1)実態調査について
 - ①子どもの貧困の実態調査を行っているのか。
 - ②就学援助を受けている方の人数と割合はどうか。
 - ③教育委員会と連携し、生活状況や食料など、支援を必要としているかなど、学校などでアンケート調査を行ってはどうか。
 - (2)フードバンクの取組みについて
 - ①食べるものに困っているとの相談から、フードバンクにつなぐ例はどのくらいあるか。
 - ②必要に応じ、フードバンクや企業などと連携し、ひとり親世帯などの生活困窮者に食糧支援を行う事業を立ち上げてはどうか。
 - (3)奨学金制度について
 - ①国や都、日本学生機構などでは、大学進学等の奨学金制度を充実し、市でも金利ゼロの入学金貸付制度を行っているが、周知は行き届いているか。
 - ②さらに一歩踏み込んで、収入によって返済不要の奨学金も必要ではないか。
 - (4)子ども食堂について
 - 家庭や地域で孤立する子ども達に、学習支援や食事提供をする「子ども食堂」の取組みが近隣市でも始まっているが、居場所も含め、設置を支援してはどうか。
 - (5)就学前を含めた子どもの貧困対策の充実に向け、今後どう取り組んでいくのか。

1. 道路・水道・下水道の維持管理について

- (1)道路の維持管理について
 - ①平成25年度から今年度まで、入札案件となる市道の補修はそれぞれ何件実施されたか。
 - ②今後の入札案件となる市道の補修工事の予定は。
 - ③補修箇所となる順番はどのように判断しているのか。
- (2)上水道の維持管理について
 - ①平成25年度から今年度まで、水道管布設や管種替え工事はそれぞれ何件実施されたか。
 - ②今後の工事予定は。

12月7日

9 人目	18 番	門 間 淑 子 (60 分)	<p>③水道管布設工事箇所となる順番はどのように判断しているのか。</p> <p>(3) 下水道の維持管理について</p> <p>①平成 25 年度から今年度まで、下水道管工事やマンホール蓋の更新はそれぞれ何件実施されたか。</p> <p>②今後の更新工事等の予定は。</p> <p>③下水道管等、工事箇所となる順番はどのように判断しているのか。</p> <p>(4) 他部署との連携について</p> <p>①道路・水道・下水道の工事は、どれも道路を掘削して工事を実施するものである。それぞれ別々に実施した場合と、同時に実施した場合では道路を掘削する回数も変わるのではないかと考えるが、その場合、費用はどのように変わるのか。</p> <p>②平成 25 年度から他部署との調整で、同時に実施された工事は何件か。</p> <p>③老朽化した道路の補修や水道管の耐震化を図るための管種替え、老朽化した下水道管の工事など、今後、多くの費用が必要になると予測される。他部署と連携して工事することにより、少しでも歳出を抑える工夫が課題であると思うが、市の考えを伺う。</p>	12 月 7 日
10 人目	11 番	山 崎 陽 一 (60 分)	<p>1. 学校のトイレ改修を急ごう</p> <p>(1)平成 28 年度実施計画では、平成 29 年度に第 3 期羽村一中のトイレ改修工事が予定されているが、どこを改修するのか。</p> <p>(2)羽村一中のトイレ改修工事は 4 年計画になっている。スピードアップできないか。</p> <p>(3)今後、市内小中学校トイレ改修工事は、どのように進めていく予定か。</p> <p>(4)全小中学校の工事完成後、洋式化率は何%になるか。</p> <p>2. 昭島市の可燃ごみ受入れ問題について</p> <p>(1)昭島市の意向を聞いたが、平成 31 年度までに西多摩衛生組合に加入したいとのことだった。羽村市は、昭島市のこの意向を聞いているか。</p> <p>(2)昭島市の可燃ごみは、羽村市と福生市のそれを合計した量と等しい。分別・減量・資源化への努力に水を差すと考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>(3)昭島市の加入は、ごみ処理施設の長期固定化につながるとの懸念が強いが市長の見解を伺う。</p> <p>(4)昭島市の加入要請は、住民投票が必要なほどの内容であり、詳しい説明を求める声が多くあるが、市民説明会が必要ではないか。</p>	12 月 7 日
10 人目	11 番	山 崎 陽 一 (60 分)	<p>1. 区画整理撤回要求第 39 弾</p> <p>(1)370 億円の巨大大業に、完成予想図も立体模型</p>	12 月 7 日

11 人目

10 番

橋 本 弘 山
(60 分)

もない無計画性を聞く。

- ①住宅地で工事が行われている。工事説明はその範囲で、誰が行ったか。
- ②工事作業の内容、完了後の地形説明資料などは、どう示したか。
- ③工事への疑問、苦情、抗議があったか。あれば、どのようなもので、どう対応したか。
- ④騒音規制法、振動規制法、都民の健康・安全確保と環境に関する条例は順守しているか。
- ⑤平成 27 年から 3 年間の実施計画がある。その設計と工事内容、完了後の地形を聞く。
- ⑥平成 28 年度は 5 棟の移転となっている。仮換地指定はしたか。したならいつか。
- ⑦対象権利者にいつ、誰が、どんな資料で説明したか。
- ⑧370 億円の巨大公共事業だ。完成予想図はどのようなものか。
- ⑨高低差 14m の大きい地域だ。立体模型での説明が必要ではないか。
- ⑩丁寧な説明を心掛ける、と再三答弁している。わかりやすい資料はいつ示すか。

2. 進めぬ市民公募委員の拡大。具体的施策は何か

- (1) 市民公募委員の参加委員会数と定員数は。
- (2) 市民公募委員は現在何人か。欠員はあるか。
- (3) 選考方法と選考基準は何か。
- (4) 作文で選考する委員会はどこか。
- (5) 応募者に選考基準を示しているか。
- (6) 客観性、公平性は保たれるか。その根拠を聞く。
- (7) 定員割れの審議会。その理由と補充対策はどうか。
- (8) 長期総合計画では市民公募委員枠拡大を掲げている。その目標人数、方法を聞く。

1. 災害時における各種廃棄物の集積場所および廃棄場所等について

- (1) 災害時における廃棄物の処理について
 - ①羽村市において多摩直下型地震、立川断層帯地震による倒壊家屋等の物的被害はどのくらいを想定しているか。
 - ②同様に西多摩衛生組合構成市町においてはどのくらいの想定か。
 - ③羽村市の災害時の廃棄物の一次集積場所はどこか。
 - ④羽村市の災害時の廃棄物の中間処理、最終処分場所はどこか。
 - ⑤現在の災害廃棄物の一次集積場所、中間処理、最終処分場所の広さは十分であるのか。
 - ⑥災害時の廃棄物の持ち込みは業者のみが行うのか。
 - ⑦災害廃棄物は様々な物が入り混じった状況であるが、その可燃物と不燃物、資源化が可能か否か等の選別はどのように行うのか。

12 月 7 日

- ⑧その選別作業はどここの場所で行っていくのか。
 - ⑨がれき処理マニュアルは策定されているのか。
 - ⑩羽村市における「災害廃棄物処理計画」作成の進捗状況はどうか。
 - ⑪災害廃棄物の処理について、西多摩衛生組合構成市町の中ではどのような取決めがされているのか。
 - ⑫今後、災害時の廃棄物処理の広域での取組み、相互の協力態勢が必要と考えるがいかか。
 - ⑬羽村市職員が熊本地震後に現地に派遣されたが、そこでの任務と羽村市が学ぶべきことは。
- (2)洪水、土砂災害時における土のうの集積場所について
- ①8月の台風9号による水害の際、土のうはどのくらい使用されたのか。
 - ②その際の市役所の土のうは何人の職員で対応したのか。
 - ③現在の土のうの集積場所は何カ所あり、その場所はどこか。
 - ④8月の水害の際、り災証明を出した世帯はあったのか。
 - ⑤り災証明により、被災世帯にどのような支援が可能になるのか。
 - ⑥水害による災害廃棄物の処分はどう行ったのか。
 - ⑦今回の被害により市内で新たな浸水要注意箇所は把握されたか。
 - ⑧今後の水害対策および水防訓練を実施している消防団との連携をどう考えるか。
- (3)大雪の際の除雪の置き場について
- ①大雪の際の除雪の一時置き場は何カ所あり、その場所はどこか。
 - ②その一時置き場の数は十分といえるのか。
 - ③道路除雪の際の市内建設事業者との災害時応援協定は現在どうなっているのか。
 - ④農業者団体との災害時応援協定は結ばれているか。
 - ⑤前回の大雪の際の教訓を活かした対策は。
- 2. 羽村で働くということ（羽村版人材バンクについて）**
- (1)現在までの羽村市の雇用、就労支援について、どのような施策が行われているか。
 - (2)それぞれの効果はどうであったのか。
 - (3)商工会との連携はどのようにされているのか。
 - (4)「羽村で働く」ことをどう捉えているか（その効果、メリットなどは）。
 - (5)地域人材バンクの取組みも各自治体で始まっている。「羽村版人材バンク」を創設し、登録した市民と市内企業とのマッチングを進めていく取組みについて、市の考えは。

1. 過労死等防止の自治体の責務を果たし効果的な対策を急げ

- (1) 過労死等防止に向けて、羽村市は、国とどのように協力し、効果的な対策を講じてきたか。
- (2) 羽村市では、本年 11 月どのような周知・啓発を行ったか。
- (3) 羽村市の過労死等の相談体制はどうなっているか。また、平成 27 年度、28 年度において、何件の相談があったか。
- (4) 羽村市は、過労死防止について市内の事業所とどのような協力体制を築いているか。ストレスチェックの運用指針について、事業者に広報周知し、支援すべきではないか。
- (5) 羽村市職員の、平成 27 年度の有給休暇取得率は何%か。また、東京 23 区および 26 市中、取得率は何位か。現状をどう捉えていて改善する考えは無いか。
- (6) 大綱の中では、学校教育を通じて啓発を行うとあるが、教員の長時間労働も慢性化している中で、どのように児童・生徒に啓発していく考えか。
- (7) 推進法第 11 条では、地方自治体は、民間の団体が行う活動に対して、必要な施策を講じると定められているがどのような施策を講じているか。
- (8) ライフ・ワークバランスを進め、過重労働を防止するには、「インターバル規制」が最も効果的と考えるが、羽村市は率先して進めていく考えは無いか。

2. 「スーパー公務員」ではなく、「住民プロフェッショナル」の自治体職員の育成を

- (1) 地域担当職員を決めて、地域の声を直接聴くことができる体制を作れないか。
- (2) 羽村市職員で、地元の消防団、PTA 役員、町内会自治会役員、地区委員会、子どもたちの育成の監督やコーチ、各種スポーツ文化団体などに、参加している人数等は把握しているか。また、そうした活動もしやすい体制を整えているか。
- (3) 職員採用試験の中で、他者とのコミュニケーションの様子を参考にしたり、地域社会との関わりも参考にしたりして採用を決めていると聞くが、羽村市は考慮されているか。
- (4) 羽村市の地方創生の施策は、市民の声をどう参考にし策定されたか。

3. 今後の羽村市の景気・財政はどうなるか

- (1) ものづくり企業の撤退が続いているが、その原因と影響をどう考えているか。
- (2) ものづくり産業の育成を重点目標として、総合的な施策を推進すべきではないか。
- (3) 中小企業振興基本条例を定め、中小企業の基盤整備と生産性の向上をはかるべきでは無いか。
- (4) 商業者に、単発的なイベントではなく、抜本的な商業振興策を講じるべきではないか。
- (5) ふるさと納税で、市の財政はどの程度影響を受けているか。

13 人目

2 番

浜 中 順
(60 分)

(6) 現在、羽村市は不交付団体となっているが、今後どうなると予想しているか。

1. 道路の危険箇所の早急な改善を

- (1) U字側溝のコンクリート製ふたの開口部は、かなり大きい。実際に白杖の先を穴に落とし、折れた事故をはじめ、お年寄りや障がい者の杖やベビーカーなどの通行に極めて危険である。早急に開口部をふさぐか目の細かい金属製格子のグレーチングに改善すべきと思うがどうか。
- (2) 改善の優先順位として危険性の最も高い横断歩道に接する箇所および、ゆとりぎや学校、駅など公共施設の周辺を、直ちに改善すべきと考えるがどうか。

2. 集会施設に管理人を置き、もっと利用しやすく、また、使用料などを無料にすべき

- (1) 集会施設の利用状況を見ると利用率が極めて低い。本来、多くの市民によって活用されるべき施設を活用されないまま放置することは、市民にとって大きな損失であり、早急に対策をとるべきと思うがどうか。
- (2) 集会施設は、現場に管理人をおいて利用しやすくすべきと思うがどうか。それによって申し込みもわかりやすくなる。
- (3) 多くの市民が気軽に集会施設を活用するためには、無料化すべきと思うがどうか。昭島市や小金井市の市民会館は使用料無料で多くの市民が生き生きと活用している。

3. 「引き売り」による買い物支援の実現を

- (1) アンケート調査を行い、買い物困難者の実態を把握すべきと思うがどうか。
- (2) 「引き売り」による買い物支援を具体化すべきと考えるがどうか。
- (3) 羽村市だけでなく広域事業として、他の自治体との協力で行うことも考えられるがどうか。

12 月 8 日

14 人目

3 番

印 南 修 太
(60 分)

1. 新たな職住近接のまちづくりについて

- (1) 都市空間と自然環境の近接
水辺の活用の一つとして、堰下レクリエーション広場に駐車場を整備できないか。
- (2) 農業生産者と消費者との近さ
都市農業のある豊かさの発信源として、農業者・観光協会と連携し、マルシェやアグリツーリズムを実施できないか。
- (3) 次世代とものづくり現場の近さ
市内に工業科のある高等学校をつくれな
- (4) 羽村市役所からの「働き方改革」
年次有給休暇取得率などの改善をはかることで、家族や地域で過ごす時間を増やし、それを情報発信してはどうか。

12 月 8 日

1. 広報などのあり方について**(1) 紙媒体での発信について**

- ①定期的に発信・配布していると認識しているものについて、どんな情報媒体（タイトル）が、どんな頻度で、誰（部数を含む）に対して、どのように配布されているか。
- ②それらの配布費用は年間いくらか。それらの効率化についてどう考えているか。
- ③年に1度、事業の報告といった趣旨で発信されているもの（直近では、「はむらの資源とごみ」）は、部単位でいくつあり、それらの配布先はどうなっているか。また、それらの発行目的は見直されているか。事務報告書に統合することも考えるべきではないか。
- ④羽村市の教育について、その目指すところや特徴などをまとめたパンフレットを作成し、市内外へ情報提供してはどうか。

(2) 公式サイトでの発信について

- ①注目情報・新着情報の掲載基準は何か。
- ②イベントカレンダーへの掲載基準は何か。
- ③ツイッターとイベントカレンダーの役割分担は。
- ④イベントカレンダーを活用すべきではないか。
- ⑤市外の方への発信について、今のままのサイトで羽村市に興味をもってもらえると考えているか。
- ⑥(1)紙媒体での発信の③事業の報告 ④羽村市の教育などの情報も公式サイトに載せてはどうか。

2. 羽村駅西口土地区画整理事業について

(1) 事業計画の見直しは終わったのか。終わったならいつ公表するか。まだならいつ公表するのか。

(2) ハード面に移行した今、事業に関する地権者への説明について

- ①情報紙「まちなみ」以外に地権者に配布した説明資料はあるか。あるとすればどんなものがあるか。
- ②「まちなみ」に掲載した情報のうち、地権者が事業の進展に伴って対応しなければならない様々な事象・負担などに関する説明資料はあるか。なければ作成すべきではないか。
- ③説明に当たっては、市の職員が対応すべきと考えるがどうか。

(3) 地権者からの要望などについて、文書で提出されたものには、その都度回答されているようだが、回答の中で検討課題として残されていたものについては、その後どのように対応したか。また、残っている課題は何か。

(4) 羽村大橋からの接続など、都の計画との整合性は、いつまでに調整するか。

(5) 事業の推進に当たって

- ①長期にわたる事業のため、財政面の見通しを付けるのは成功のための必須条件と考える。

16 人目

15 番

濱 中 俊 男
(55 分)

後世に重荷を残すことを避ける方策をどのように考えているか。
②反対されている地権者への働きかけは今後どのように展開していくのか。

1. 東京都市町村総合交付金について

(1) 過去の状況について

- ①都における本交付金の創設当初からの各年度の推移は。
- ②羽村市の交付額の推移は。
- ③主な使途は。

(2) 来年度の予算額について

- ①本交付金の総額はどのような見込みか。
(ア) 東京都は
(イ) 羽村市は

②どのような経営努力や創意工夫をしているか。

(3) 「新たな多摩のビジョン」の推進について

- ①本計画の目指す施策の実現のための取組みは。
- ②財政面の充実についてはどうか。

2. 子育て支援型3人乗り自転車について

(1) 貸出し（レンタル）あるいは購入費補助について

- ①他市の状況はどうか。
- ②検討する考えはないか。

(2) 普及啓発について

- ①現在どのようなことを行っているか。
- ②当市において、必要台数を何台ぐらいと捉えているか。
- ③保護者用リーフレットは市内幼稚園・保育園等に配布されているか。

(3) 市民からどのような声が届いているか。

3. 有害鳥獣等の対策について

(1) 有害鳥獣等について

- ①カラスの生息状況をどのように捉えているか。
- ②農業被害対策はどのように行っているか。
- ③カワウ（川鶇）等による、多摩川棲息魚類の食害対策は。
- ④外来生物法による外来種の防除事業は行っているか。

(2) 市に寄せられた被害や苦情について

- ①農家等からは、どのような声があるか。
- ②そのほか一般市民からはどうか。

12 月 8 日

17 人目

7 番

鈴木 拓 也
(60 分)

1. 介護保険を来年4月からどう変えるのか

(1) 要支援1、2の人へのサービスについて

- ①どういうサービスを行うことになるのか。
- ②サービスの提供者は誰になるのか。
- ③サービスの質・量は十分に確保されるのか。
- ④必要なサービスを必要な人が受けられる制度になるのか。
- ⑤サービスの単価はどうなるのか。
- ⑥事業者にはどんな影響があるのか。

12 月 8 日

2. 昭島市のごみ受け入れは中止しよう

(1)昭島市へ「現在の焼却炉を延命化することはできるのか」と問うた。すると、「技術的には可能だが、財政的な面で負担が大きい」旨の答えであった。

昭島市が焼却炉を延命化し、自区内処理を続けることができれば、羽村市にとって、もっとも望ましい対応になると思うが、どうか。

(2)昭島市から、立川市との可燃ごみ共同処理について対応をまったくとったことがない旨の説明を受けた。そこで「あらためて立川市へ共同処理について申し入れるべきではないか」と問うたところ、「西多摩衛生組合へ加入要請をしており、その道を進んでいきたい」旨の回答があった。立川市との共同処理について否定はされなかった。

今回の昭島市からの西多摩衛生組合への要請は断り、まずは、立川市との共同処理の可能性を追求してもらうことが優先されると考えるが、どうか。

(3) どのような要件が整えば、昭島市からの要請に応えることになるのか。逆に、どのような要件が欠ければ、要請には応えられなくなるのか。

3. 動物公園通り、羽村街道の交通安全について

(1)動物公園通りについて

①大型車規制が続けられているが、この規制が変更される可能性はなくなったのか。

②大型車でも登録をすると通行できると聞いているが、その手続きはどういったものか。何台の登録がなされているのか。

③学校、動物公園などが集まっているエリアであり、ひきつづき大型車規制が継続されるよう、警察への働きかけを続けるべきではないか。

④羽村街道との交差点で、朝夕に自動車が渋滞している。右折矢印付き信号を設置し、スムーズで安全な通行ができるよう、警察に強く働きかけるべきではないか。

(2)羽村街道について

①神明台3丁目、富士見平2丁目で、「日中、大型車が信号付近に駐車し、自動車通行に危険を感じることもある。」との声を聞く。現状をどう把握しているか。対策をとるべきだと考えるが、どうか。